

曹洞宗の大本山永平寺は、道元禅師どうげんが開かれた修行道場です。三月に北陸新幹線が開通して、首都圏から福井県にある永平寺に行くのも、以前に比べて大分便利になりました。

五月、ようや漸く雪が融けて新緑がめぶ一斉に芽吹く季節を迎えると、ついちまず一日には、春に修行をこころざ志した者が正式に修行僧として認められる儀式があります。その一週間後には三カ月間の集中修行期間である「夏制中(なつせいちゅう)」に入り、首座(しゅそ)というリーダー役を中心とした、本格的な修行の季節がはじまるのです。

五月の連休の最終日には、永平寺町えいへいじちやうの観光協会と物産協会による「永平寺花祭り」が行われます。お釈迦さまの御誕生ごたんじやうを祝う花祭りといえは四月ですが、ここでは雪解けを待って月遅れで行われます。

これは、十年前からはじまった比較的新しい行事で、お稚児ちごさんの行列がご本山の門前通りの入り口を出発し、日本一の大きさといわれる白い象を引きながら、もんぜんまち門前街をパレードして、永平寺に入って石畳いしだたみの坂道を上ります。

さんもん山門の前に着くと子供たちは、永平寺山内の老師様から仏様の智慧の水をあたま頭に受けて、皆で誕生たんじやうぶつ仏に甘茶をそそぎます。一般の方への甘茶の振る舞いなどもあり、お釈迦さまの御誕生をお祝いする華やかなもよお催しとなっています。

五月下旬になりますと、修行僧は「木ノ芽峠祖蹟きめとうげそせきはいとう拜登」を行います。修行僧にとって永平寺に入り、初めてご本山の外に出る機会です。これは、道元禅師どうげんが晩年に病氣療養のためにきやう京へ向かう途中、えちせん越前とわかさ若狭のくにざかい国境に当たる峠で弟子のてつづ徹通ぎかい義介禅師と別れた祖蹟を拜登する行事で、古い石畳いしだたみの峠道とうげみちを登るとおもむきのある萱葺きの茶屋があり、かたわらの大きな記念碑の前でお経をあげ、帰りには大本山總持寺を開かれたそうじじ瑩山けいざん禅師ご誕生の地などをまわります。

その昔、長い修行の旅をしたであろう多くの先人の姿が思い浮かび、さらには道元禅師どうげんの御心みこころがしの慰まれて、まだ新しい修行僧にはこころざし志を新たにあらにする拜登でもあります。

五月も末になると、修行僧は永平寺裏山したくさがの下草刈りもはじまって、山懐やまふところで修行させて頂いているという想おもいが深まって参ります。

雪が融^とければ、一般の方も隣の^{あたごやま}愛宕山に登ることができます。頂上にある観音堂からのご本山の眺めは格別です。^{はるさか}春盛りの北陸、大本山永平寺を訪れてみてはいかがでしょうか。

— 終 —